

岐阜県支部だより

第9号 平成24年10月20日

- 1 巻頭言
- 2 支部研究会報告
- 3 静岡大会参加報告
- 4 事務局より

巻頭言

「予防的教育相談」という視点から

総合学園ヒューマンアカデミー名古屋校

校長 足立 司郎

「予防的教育相談活動」の一環として、諸検査や定期的な面接、必要に応じた個人面接を始め、各授業などでの児童生徒の様子を報告しあう、「観察会議」なる会議を実施している学校が多いと思います。近年は、この諸検査に加えて「QU」を実施するところが増えてきているように感じています。これは、学級生活の満足度と学校生活の意欲度から援助を求めている児童生徒を早期に「発見」し、対応しようということからなのでしょう。私は、こうした面も「予防」として必要だと思います。しかし、「最も児童生徒の身近にいる教職員と家族が、日頃からカウンセリングを行うように観察し、また相談に乗れるような環境・システムを整えておくこと」(小松隆二)と「体制・態勢」の大切さを指摘する人がありますが、こうした「体制・態勢」は、私も必要だと考えています。私はむしろ、「児童生徒にかかわる全ての人＝カウンセラー」として、いつでも『気・目・声・手・こころ』をかけ、積極的に相談に乗り、「一緒になって努力して新たな状況を切り拓いていく」という気持ちで接していく「体制・態勢」が、「予防」を一層促進することになるのではないかと考えています。特に、各学校に配置されているスクールカウンセラーは、毎日学校に常駐しているわけではないからなのです。ですから、「児童生徒にかかわる全ての人」がこの考えで接していくことが必要だと言うのです。

私は現在、2年制の専門学校に勤めていますが、常勤、非常勤の教職員、社員に限らず、学生には

この考えを基にして接してもらっています。見ていると学生は、担任に限らず話しやすい人に相談をかけています。ただ、情報は必要に応じて共有し、担当を分担しながら複数で対応する場合があります。それは、きめ細かく丁寧に進めなければ、進級率を上げることができないからであります。

(進級率というのは、1年から2年へ進級する割合のこと) 公立の学校ではあまり意識しないことですが、この進級率は報酬に影響するということもあります。しかし、それ以上に、頑張ったという「達成感」、「成就感」などを持たせたいという思いからであります。特にこの学園は、「為世為人」となる人を育てることを綱領としていますので、「有用感」をキーワードに、「①結びつき、②思いやり、③分かち合い、④よりよく」の実感と「世の中で人の役に立ち、必要とされたい」といった感情を大切にしています。ですから、「個人を超える」という、「公益」の理念をもとにして、球技大会を始め、学園祭、新入生のための様々な体験会、新入生オリエンテーションなどの行事について、学生の組織が中心になって運営するようにし、教職員はその「サポート」という立場でかかわるようにしています。

この「学生にかかわる全ての人＝カウンセラー」という考えは、アンテナを広く張ることになり、早い段階での支援を可能とし、ドロップアウトの学生を減らすことに貢献してくれています。



☆ 支部研究会報告 ☆

◇定期総会（第22回総会）・第1回研修会

開催日：平成24年6月16日（土）
会場：朝日大学（岐阜県瑞穂市）

1. 定期総会

今年度の岐阜県支部定期総会は、6月16日（土）に朝日大学で行われました。総会では、支部役員、23年度活動・会計報告、24年度活動計画、予算案などが審議されました。規約については一部改正案が提出され、承認されました。（総会資料につきましては、支部会員全員に送付いたしました。届いていない会員の方がみえましたら事務局までご連絡下さい。）

また、来年度、岐阜県で行われる全国大会に向けての進捗状況も説明がありました。御協力していただける方は、事務局まで是非ご連絡ください。

『学校適応に不器用さをかかえる児童・生徒への支援』

講師：宇部フロンティア大学教授
小栗 正幸 先生

記念講演では、小栗正幸先生に『学校適応に不器用さをかかえる児童・生徒への支援』という題でご講演をしていただきました。小栗先生は、岐阜県のご出身で、法務技官や少年院長を歴任されました。大学での仕事の他に、発達障がい関連の親の会や特別支援教育士スーパーバイザーなど多方面でご活躍されています。

「うまくいかない時はやり方を変えましょう。」という言葉が最初に述べられたのが印象的で、今までの見方・考え方にどう対応していくかという内容から講演は始まりました。「勉強がわからない」「自分ばかりが叱られる」といったことは決め付けからくるものであり、そういった視点を変えていくことが大切であると述べられ、児童・生徒のニーズに合わせた援助の必要性を説かれました。理不尽な言動（無理な要求や悪口等）があった場合の具体的な対処法であるとか、保護者への支援の在り方など、多岐にわたる内容についてユーモアを交えてお話していただき、今後の教育相談について考えるきっかけをつくっていただきました。

（文責：小笠原淳）

◇夏の教育相談研修会◇

開催日：平成24年8月11日（土）
会場：朝日大学（岐阜県瑞穂市）
参加人数：約70名

「キレル児童・生徒への対応」 ～感情をコントロールする力を身につけさせる情動学習～

講師：福岡教育大学 研究補佐員

山田 洋平 先生

子どもたちの「学校適応感」を把握するアセスアンケートについて、初めて研修される参加者の方も多くいらっしゃいました。

また、アセスの結果の読み取りについて参加者同士の意見を交流し、色々な解釈の仕方を学びました。



午後の部では「キレル児童・生徒への対応」というテーマでSEL（社会性と情動の学習）という心理教育プログラムの講話のあと、各務原市立緑

苑小学校の森俊郎

先生からSEL

の授業実践報告がなされました。社会的スキルを感情面から育成しながら身につけてい

くというプログラムで、参加者からは「気持ちと向き合うこと、自分の気持ちを理解することの大切さを学んだ。」という感想をいただきました。

（文責：佐々木 文枝）



日本学校教育相談学会主催
夏季ワークショップ・第24回総会・研究大会
開催日:平成24年8月17日(金)~19日(日)
場所:静岡県(静岡文化芸術大学)

報告1. 夏季ワークショップ(17日)

「心の絆を深めるピア・サポートの進め方」 (広島大学 栗原慎二先生)に参加して

ピア・サポートとは、「ピア」=仲間、「サポート」=支援を表し、子ども達が子ども達同士で相互に支え合う活動を言います。子どもの環境が変化している今、子どもの人間関係と育ちを支えるサポート体制を構築するために、必要とされているものです。

特に、私が印象深かったのは、次の言葉です。……「私達は『やれ』と言いながら、そのやり方についてきちんと教えてくださるだろうか」「私達は、子ども達の向社会的行動を育てるような仕組みや活動を実際の教育活動の中に作ってきただろうか。」「私達は子ども達の、人を思いやる力や行動力をどれだけ信用してくださるだろうか。」「……これらの言葉により、私は多くのことを振り返ることができました。

ピア・サポートはサポートされる側だけでなく、サポートする方(サポーター)の成長も促す取り組みでもあります。そのため充実したコミュニケーション訓練がありました。自己開示や他者理解の方法など、様々なコミュニケーションの取り方を実践しました。

また、各校の様々な実践例を聞くことも大変参考になりました。プール指導の支援、リコーダーの支援、生徒によるテスト勉強会などの学習支援、雨の日遊び隊、あいさつ隊などの課外活動、新1年生の一日劇、昼休みパトロール隊の生徒会、他に、保健室登校の生徒が、ピア・サポーターの働きかけで教室に戻ることができた事例などもあり、ピア・サポートの可能性を強く感じることができました。

(文責:広報担当・幸脇弥生)

報告2. 実践事例発表(18日)

「絵本の読み合わせの効果~不登校学生の試みから~」(金沢工業大学心理科学研究科 増田梨花先生)に参加して

軽度発達障害と診断された幼稚園児を対象に

臨床心理面接として絵本の読み合わせを実施し、不安やストレスを緩和するための面接方法として、生理学的指標(鼻部皮膚温・心拍数)を用いて検討したものでした。

河合隼雄が「絵本の力」に中で、「絵本というのは実に不思議なものである。0歳から100歳までが楽しめる。小さいあるいは薄い本でも、そこに込められている内容は極めて広く深い。それだけに絵本というものは、相当な可能性を内蔵していると思われる。」と述べていることを実証しようとした研究発表でした。

友だちができず大学に欠席しがちだった女子学生が、週1回幼児といっしょに本を広げ、せりふを読み、同じ世界を共有して読み合わせる中で、学生にも園児にも社会適応性の向上や精神の安定度の向上がみられたとの報告を聞き、絵本のもつ可能性を知り、新しい世界が開けたような気持ちになりました。

(文責:広報担当・堂前計枝)

報告3. 特別講演

静岡文化芸術大学 熊倉功夫学長

「日本のマナー 日常のふるまい方」

マナーは、場所や時代により、また世代により違うことや、日本の礼儀作法は型の文化であること、型を身に付けるとそれにふさわしい人になろうとするということを知りました。そしてマナーとは「間合」であり、空間により又、相手によりどう判断してふるまうかということであると話されました。お互いに相手を思いやる気持ちこそがマナーであるとお話を聞いて、日頃の自分を振り返ることができました。

(文責:広報担当・堂前計枝)

報告4. 記念講演

京都大学名誉教授 山中康裕先生

「思春期の精神病理と治療 たましい癒し」

先生は現代の子どもの問題は「病みきれなさ」ではないかと語られました。まるで人格全体の崩壊を免れようとするかのように局在化した違和感を訴えたり本当の自分を殺しても仮の集団に属することで安心感を得ようとしたりする子ども達。「魂のレベルで自分で自分の傷を癒せるよう」信頼される大人として向き合える力をつけたいと感じます。

(文責:永田智子)

ご案内

全国大会に向けて

「岐阜県支部だより No.8」でもお知らせしましたが、平成 25 年度にある日本学校教育相談学会の全国大会は岐阜で行います。今年の 8 月にあった第 24 回総会・研究大会（静岡大会）の総会で正式に第 25 回総会・研究大会（岐阜大会）について紹介されました。代表として、下野理事長が登壇して、全体の場であいさつもされました。いよいよ、岐阜大会に向けて本格的にスタートしていきます。

前号でもお知らせしましたが、再度、現在のところまで分かっていることをお知らせします。

- 1 期日 平成 25 年 8 月 9 日（金）～11 日（日）
- 2 テーマ 『一人一人を認め育てつなぐ学校教育相談』
- 3 会場 朝日大学
- 4 内容
 - ①ワークショップ 8/9（金）
5～6 のコースに分けてワークショップを行います。講師・内容については交渉中。
 - ②総会 8/10（土）
 - ③記念講演 8/10（土）
講師 富永良喜先生 兵庫教育大学教授
（兵庫県立教育研修所心の教育総合センター長）
演題「人と人とのつながりや思いやりを育てる学校教育相談」(仮題)
 - ④特別講演 8/10（土）
講師 宮本正一先生 岐阜大学教授
演題「未定」
 - ⑤実践事例・研究発表会 8/10・8/11
 - ⑥ポスター発表 8/10・8/11
 - ⑦自主シンポジウム 8/10・8/11

⑧会員懇親会

8/10（会場は朝日大学）

3 日間に渡る大会です。参加される方から「岐阜に行ってよかった。」「大会に参加してよかった。」と感じていただける大会にするために、内容面でも運営面でも充実させていきたいと思っています。

岐阜支部の皆様には、運営面でもご協力頂けたら幸いです。具体的にご協力いただけるかどうかなどを教えていただくことになるかと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

愛知支部の紹介

全国大会の開催も関係して、愛知支部の事務局の方と連絡を取り合う機会がありました。そこで得られた情報を少しだけ紹介します。今まで近県でありながら、あまりやりとりが出来ていませんでした。これを機会につながりができることを期待しています。

愛知支部は、170 名程の会員数で、年間に 4 回の研修会（総会記念講演、事例研究会、教師のためのカウンセリング講座）を行っているそうです。参加者は、毎回は 20～30 名程度だそうで、愛知県と名古屋市の学校教育相談に関係している方が中心になっているそうです。愛知支部の特徴は、既述のような 4 回の研修会以外に、地区ごとに分かれて研修会を行っているそうです。

- ・名古屋地区：年間に 7 回の研修会
- ・尾張知多地区：年間に 5 回の研修会
- ・三河地区：年間に 5 回の研修会

紙面の関係で、それぞれの研修会の内容までは記載できませんが、興味のある方は事務局まで連絡ください。詳細をお伝えします。

（文責：事務局長 木村 正男）

日本学校教育相談学会岐阜県支部会報第 9 号
2012 年（平成 24 年）10 月 20 日発行
発行：日本学校教育相談学会岐阜県支部
編集：日本学校教育相談学会岐阜県支部広報委員会
ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~sodangif/>
E-mail : sodan-gifu@plum.ocn.ne.jp